



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 105

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

第20回「エコメッセ2015inちば」開催報告

エコメッセちば実行委員会 委員長 桑波田和子

シルバーウィーク最終日の9月23日(水・祝)第20回「エコメッセ2015inちば」を、開催しました。10時からの開催でしたが、9時45分の開会式には、出展者団体の皆さま以外に、親子連れの県民の方の来場が多く見られました。来場者は速報で11,000人でした。

エコメッセは1996年から毎年開催し、今年は20周年となりました。生まれた赤ちゃんが成人すると思えば、とても感慨深いものです。持続可能な社会の実現に向け、市民・大学・企業・行政との協働(パートナーシップ)で実行委員会を設立し、運営・企画し継続して実施しているのは、全国でもまれです。市民側の「環境パートナーシップちば」は、エコメッセちばの実行委員長、事務局機能を担い、実行委員や出展団体などとして、皆さまのご尽力をたくさんいただいていることも意義深く思います。

これまでの歩みへの感謝とこれからのエコメッセの新たな歩みについても考える年となりますので、会員皆さまの、アドバイス・ご支援をより一層よろしく願いいたします。

さて、今年のエコメッセのテーマは「つながれ ひろがれ エコメッセ ～エコっておもしろい～」でした。ご出展、ご来場された会員の皆さま、いかがでしたでしょうか？

実行委員会としては、子どもから大人まで、環境保全を義務感でなく、面白い、不思議、なるほど!と、各ブースで体験していただき、今後の暮らし方へのヒント、行動へとつないでいただきたいと思います。

各ブースでは、子どもの質問に、親も加わり出展者の方とのやり取り等いきいきとした会話はずんずんしているのが印象的でした。

会場は、温暖化防止、エネルギー、ゴミやリサイクル、水の浄化、里山保全、生物多様性の保全、福祉団体による環境にやさしい物産の販売など112団体の出展がありました。今年初めて出展の環境省ブースでは、「COOL CHOICE(クール

チョイス)」の説明などがありました。環境省の方を、温暖化防止活動団体、千葉県、千葉市、温暖化防止推進センター、環パちば等を紹介し、交流しました。

今年初めての環境活動紹介コーナーでは、ちば環境再生基金事務局が、県内市町村、市民団体へ環境活動をエコメッセで紹介しますと呼びかけた結果を、千葉県を4地区に分けたパネルで紹介されました。

同時開催としては、ミニSLに乗り、釣りや森のパチンコ等の自然環境ゲームに挑戦して、親子で楽しく学ぶ「環境アイランドちば」やロンドンのオリンピックから学ぶ「ごみゼロ」への挑戦の千葉県3R推進シンポジウム、「太陽熱」の可能性についての、九都県市再生可能エネルギー活用セミナーも開催されました。

屋外では、エコカーの展示・試乗会も開かれました。今年は燃料電池自動車(水素自動車)の試乗もあり、人気でした。

無事に終了したエコメッセですが、当日は、高校生・大学生他約50名のボランティアのご支援もいただき、運営しました。資金面は、出展料、協賛金、ちば環境再生基金の補助などでした。

来年のエコメッセは、平成28年9月22日(祝・木)幕張メッセで開催の予定です。みなさまのご予定に入れていただければ幸いです。



エコメッセちば 20周年記念誌編集と記念交流会を終えて

エコメッセちば実行委員会事務局 望月靖子

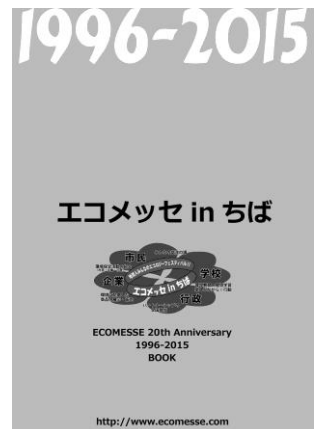
1996年に始まった「エコメッセちば」が今年で20周年を迎えるにあたり、記念誌を作成しました。10周年の際にまとめられた記録誌や毎年作成される報告書を基に20年間を振り返りました。屋外で始められたエコメッセが室内に変わり、12団体だった参加団体が100団体以上になり、近年の来場者も12,000人前後と増えてきています。また、紙焼きだった写真がデータになり、ホームページが作られ、情報が一斉メールでやり取りされ・・・と時代に沿って変化して行くさまが感じ取れました。

しかし、いくら文明の利器が進歩しても「人」が動かなければ始まりません。エコメッセは多くの「人」が実行委員として、出展者として、来場者として動くことによって成り立っています。

「エコメッセ2015inちば」が終了した後「エコメッセちば20周年記念交流会」を開催しました。当初の実行委員から現在の実行委員まで約40名が集まり、エコメッセが開催されるに至るまでの貴重なお話や当時の懐かしいお話、現役の頼もしい挨拶などが飛び交いました。こうした交流があって、また21回目のエコメッセに向けて動き出すのだと思います。

記念誌の編集・交流会の開催を行い、思いやそ

の方向性が違っても話せば歩み寄れる、一緒に作り上げられるのだと実感しました。来年もその先も・・・持続していける「エコメッセちば」であるよう、微力ながら活動したいと思います。



エコメッセ2015inちば・環パちば出展ブースの報告

エコメッセinちばは今年で20回目の開催となり正に歴史ある大イベントとなりました。秋分の日祝日と重なる9月23日(水)広い会場の中は、盛りだくさんのブースと幅広い年齢層の来場者でギッシリ、そんな中、環境パートナーシップちばのブースには「お天気相談コーナー」を設け来場者を迎え入れました。

環パ・ブースでは来場者が、単なる見学だけのコースではなく、クイズをもって話しかけ、手軽な道具を活用したお天気実験で興味をもちたて、更に気象専門家による大型モニターを駆使した解りやすい説明で仕上げといった、系統立てた内容に出来上がりました。中でもクイズ出題はカードを用い「空から降ってくる雨はどんな形?」「雷が発生した時、対処方法はどれが大丈夫?」等それぞれ選択回答方式で会話が弾み、正解発表の場になって「な～んだ・そうだったのか～」で笑いが弾みました。また、お子さんたちはペットボトルを利用して雲ができる実験と、渦巻のできる現象をペットボトルの水が勢いよく回転しながら流失する様子を見て、驚きと興味深々の面持ちで体験

していました。

最後にお天気おじさんならぬ気象庁OBの防災士・千葉県災害対策コーディネーターである矢野良明氏による親しみやすい説明が好評を得、年配者も低学年のお子さんも長い時間釘づけになってしまいました。

折しも最近、日本国土の至る所で異常気象現象に見舞われ、中でも先日の台風18号の影響で各地に集中豪雨をもたらし、特に茨城県内において鬼怒川堤防決壊等の被害をもたらしたこと、更に千葉市内で起こった竜巻被害は記憶に新しいところです。そういう意味では今回の企画は誠にタイムリーな話題提供で、来場者の面々には正に「目からウロコ」となりました。

(文責 萩原耕作)



ふりふり石けん作り 犢橋公民館

7月29日(水)に千葉市犢橋公民館で「ふりふり石けん作り」を行いました。参加者は小学校低学年13名とお母様5名の18名でした。スタッフは桑波田さん、松橋さん、高瀬が担当しました。初めに桑波田さんから、家庭で使われなくなった廃食油は、千葉市ふるさと農園や団地集会場などで拠点回収され、再生工場バイオ燃料などにリサイクルされる千葉市の取り組みと、資源の大切さを説明後、「ふりふり石けん作り」開始です。宇宙ダンス!やYO! Mickeyなどのリズムカルな音楽に合わせ、みんな笑顔で体全体を使って上下左右にペットボトルを振りました。

「ふりふり石けん」はペットボトルにオルトケイ酸ナトリウム25gを入れ準備しておき、そこに水50cc入れて透明になるまで溶けたら、廃食油100ccとアロマ(廃食油の臭い消し)を入れ、ペットボトルのふたをしっかりと閉めて20分間振り混ぜるとドロリとなります。約2週間乾燥させると固形石鹸が出来上がります。

今回、時間内でドロリとしたのは1名でした。予定より20分間長く振ってみましたが、残りの人はドロリとしませんでした。持ち寄った食廃油が新しかったのでしょうか。作った感想を聞くと、疲れたけれど楽しかった。アロマの香りが元気づけてくれたなど。みんな最後まで諦めずに頑張っ

た姿は感動的でした。

その後、高瀬が実践している油を流さないための工夫と、フライパンや食器についた油はストックしておいたボロ布(リユース)でふき取ってから洗うと洗剤も少量でOK、排水の汚れも低下することを伝えました。

最後に、「今日作った石けんを使って夏休みにズックを洗ってくださいね」とお話をしました。

参加されたお母様にお聞きしましたら、持参された廃食油は、家で1~2回使用したものでした。油を使う回数が減っていることなど、台所事情が昔と変化していると気づきました。

(文責 高瀬充子)



「生ごみを減らして野菜を育てよう」～講習会に参加中!

6月から来年2月までの5回にわたる「生ごみ処理器(バクテリアハウス)を使って生ごみを堆肥にして野菜を育てよう。育てた野菜を持ち寄って品評会をして、鍋に入れて食べちゃおう。これぞ資源循環。」(ビオスの会ホームページより)というビオスの会主催の「交流会&講習会」に、ただいま参加中です。

基礎知識として生ごみをバクテリアが分解する科学的な説明、バクテリアハウスの使い方、生ごみ堆肥化のコツ、堆肥の2次処理、そして種の配布と、宿題として花と野菜の栽培、収穫、そして調理会食、交流会と、きめの細かい丁寧な内容です。基礎的な理論、実践、活用、悩み相談、交流までを網羅しているので、参加者としては“一緒に生ごみ堆肥化に取り組んでいる仲間がいる”ことが励みになる講座となっています。

生ごみの堆肥化は、はっきり言ってとても大変です。生ごみはシンクのダストコーナーで時間がたつほど“気持ち悪い”物と変化していくのでまめに片付ける必要があります、バクテリアの活性化を

うまく軌道にのせるには手間暇がかかり、虫や臭いなど“自然現象”との格闘もありと、誰もが簡単に取り組めるものではありません。一度失敗すると身震いするほどの拒絶感を覚えることさえあります。

しかし、だからこそ、食材を入手し、調理し、食し、片付ける。食材の残りを土という自然にかえす。その土で植物を育てる。そしてまたそれを食材にする。その等身大のストーリーをじっくりと実感しながら愛で楽しむという感覚が、生ごみ堆肥化に取り組む意味だと私は思っています。

ビオスの会の方たちがこの活動を長く続けていらっしゃることは本当に素晴らしいことで、私はとても尊敬してしまいます。今回の講座も、和やかな雰囲気で行なっています。この先の調理や交流会が楽しみです。

(文責 中村明子)



『市民が地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』

今夏は記録的な猛暑や竜巻の発生だけでなく、線状降水帯という聞きなれない気象現象をもたらした記録的豪雨による甚大な気象災害が発生しました。地球温暖化の影響により異常気象の「起こりやすさ」や「強さ」が変化し、これまでにない気候が現れやすくなったといわれています。地球温暖化は、このままでは将来の世代に大きな負の遺産となるだけでなく、我々の世代にとっても現実の脅威となりつつあります。

環パちばでは、改めて“地球温暖化”について考えるため『市民が地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』をテーマに3つの環境講座を企画し開催します。この事業は、千葉市地域環境保全自主活動補助金事業の支援をいただきました。

【企画1】 9月23日に開催されたエコメッセ2015inちばの環パブースで、矢野良明氏（元気象庁 防災士・千葉県災害対策コーディネーター）による「親子で体験～お天気の不思議～&お天気相談室」を展開しました。天気に関する映像の放映やミニ解説、分かりやすい実験など体験を通じ基礎知識を習得するお天気教室と、日頃からのお天気に関する疑問に答えるお天気相談室を開催しました。千葉県下でも様々な異常気象が発生したこともあり来場者の関心も深く多数の方に来場していただきました。

【企画2】 10月15日（木）14:30～、千葉市生涯学習センターにおいて、IPCC第5次評価報告書共同執筆者・国立環境研究所江守正多氏による講演会『気候変動リスクと人類の選択～IPCCの最新報告から～』（後援：千葉市並びに千葉県温暖化防止活動推進センター）を開催します。

なぜ、CO2の増加が温暖化につながるのか地球温暖化の仕組みとリスクの全体像を、最新の成果で正しく知っていただき、『地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』きっかけにしたいと企画しています。

今年末パリで開催される気候変動枠組み条約締結国会議 COP21 で、ポスト京都として2020年以降に各国が取り組む温室効果ガス排出を減らすための枠組みが話し合われます。新しい枠組みは、各国が自主的に削減目標を決め、それを統合する『積み上げ方式』となるとされています。

日本政府は7月、『2030年度の温室効果ガス排出量を「2013年度比26%減（2005年度比25.5%減）」とする削減目標』を正式決定し国連気候変動枠組み条約事務局に提出しました。今後、目標達成のため「地球温暖化対策計画」が策定さ

れる予定ですが、工場など産業部門は6.5%、オフィスや家庭という民生部門や運輸部門は40%の削減をすることが基本となりそうです。現時点では、具体的な達成に向けた方策は提示されていませんが、家庭部門の削減目標達成には、『市民が地球温暖化問題につき、学び、きちんと向き合い、真剣に考える』ことが重要で、江守氏の講演を通じ問題の原点を確認し、私たち一人ひとりができることを考えるまたとない機会としたいと考えます。

皆様のご来場をお待ちしています。会費：資料代300円。

申込先 moushikomi@kanpachiba.com
FAX 047-353-8134

【企画3】 平成28年1月30日（土）、きぼーる（予定）において、「地球温暖化に向き合うためセミナーとワークショップ」を開催します。

セミナーは、【企画1】の講師矢野良明氏から「地球温暖化の影響とお天気」をテーマに、近年頻発する異常気象現象の仕組み、その原因に地球温暖化があることをお聞きします。

ワークショップでは、COP21で討議された温暖化防止に向けた動向、目標値等を参加者が共有した上で、地球温暖化を自分のこととして考え、『すぐできること』や『市民として言い放してない実効ある対策』をまとめみんなで共有する場を企画しています。詳細は改めてお知らせします。

（文責 川島謙治）

気候変動リスクと人類の選択
IPCCの最新報告から

講演会の日時は、雨天の場合は変更となります。このままではお天気の状況によっては中止の可能性があります。お天気の状況を確認させていただきます。

平成27年10月15日（木）
午後2時30分～4時30分

定 員 100名
参加費 300円（資料代として）
会 場 千葉市生涯学習センター 大講堂

講師 江守正多氏
国立環境研究所気候変動研究センター長
IPCC第5次評価報告書共同執筆者

申込先 moushikomi@kanpachiba.com
FAX 047-353-8134
申込期 10月15日（木）10時～11時

主催 千葉市生涯学習センター
後援 千葉市、千葉県温暖化防止活動推進センター

房総の元禄津波災害の痕跡調査（報告）

この記事は当誌の前号でも報告していますが、前号では紙幅の関係で意を尽くせなかったため、再度報告するものです。

東日本大震災（2011. 3.11 発生）による津波災害以後、過去の巨大地震による津波の高さを調査し、ハード及びソフトの対策に反映させる重要性が高まっています。

房総地域では、旭町で津波により死者13人、行方不明者2人の犠牲者が生じましたが、過去には「房総三大地震」と呼ばれる慶長9年（1604）、延宝5年（1677）、元禄16年（1703）では甚大な犠牲者を出しています。ちなみに、元禄の地震では、九十九里浜で津波が海岸から5Km程度内陸まで到達し、現在の白子町で1000人、長生村で900人を超える犠牲者がでました。

行政は現在、過去の巨大地震も視野に入れた対策を鋭意進めています。ソフト対策の要となる一般市民の防災意識を持続させることが今後の大きな課題です。

このため、私が所属する「ちば河川交流会」（防災行政に携わる経験を持つ技術者が多い）が、過去の災害の現場に行き、自分の眼と頭と足で情報を得て、一般市民にそれを伝えることを目指す活動を行いました。

その現地踏査として、平成23年と25年に、2日を使い、房総三大地震の内の最大被害を出した元禄地震について、津波の高さと被害の規模を現地で確かめるためのバスツアー（30人程の参加）を行いました。

津波の高さについては、①避難丘が残っている例として鴨川市前原地区にある津波避難丘、②津波の

高さが石碑に記されている例として、南房総市和田地区真浦の威徳院に残されている石碑、③津波の人的被害が供養塚や古文書等に記録されている例として、山武市にある松ヶ谷千人塚と本須賀百人塚を選びました。

以下に各場所の要点を示します。

①津波避難丘（写真1）

元禄地震以前に作られた高さ10m位の丘。この地域の津波高さは6m、死者は約900人と推定されている。なお、東日本震災では、30名の住民が避難したとのこと。

②威徳院の石碑（写真2）

威徳院は内房線路に隣接する山側にあり、その境内に石碑がある。この線路の路面高は13mと推定され、これと石碑に記された高さより津波高さは15m程と推測される。津波は東京湾方向から押し寄せたため、房総半島の先端にあるこの地では、特に高い津波となったが平地が少ないため多数の死者は出なかった。

③松ヶ谷千人塚（写真3）と本須賀百人塚（写真4） （写真は山武市ホームページから転載）

九十九里浜では、元禄地震津波で死んだ人を供養するため、その死体が見つかった場所に供養塚が建てられている。現在、その数は20基程が残っている。その中で松ヶ谷千人塚と本須賀百人塚では、石碑に津波の状況と死者数が記載され、また近傍の寺に詳細な記録をとどめた古文書が残っている。

これらから当時の惨状の一端に触れることができました。合掌。
（文責 牧内弘明）



写真1



写真2



写真3

この地蔵尊には多数の死者として千人と記されている。



写真4

この石碑には死者96名と記載されている。

第13回 印旛沼流域環境・体験フェア

環境フェア市民企画部会事務局 小倉久子

開催日 2015年10月24日(土)、25日(日)
1日目: 11:00~15:00
2日目: 10:00~14:00
荒天時は中止

会場 佐倉ふるさと広場に隣接する特設会場
(京成佐倉駅北口⇄会場 無料シャトルバスも運行されますので、ご利用ください。)

参加費 無料

主催 千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議

昨年と同じ場所で第13回印旛沼流域環境・体験フェアが開催されます。同じ場所と言っても、印旛沼がもっと良く見えるようになりました。コスモスもきれいに咲いている予定です。テーマは昨年と同じで「水と食と発見のある印旛沼」です。

今年は体験イベントが、より充実しました。Eポート体験が加わったのです(25日)。24日の屋形船環境学習とともに、印旛沼を体感・体験することができます。印旛沼流域の農産物や水産物等を用いた食べもののブースも出るので、「食の体験」も楽しめます。

環境フェアの中心である、流域の市民団体、13市町、研究機関などのブースもたくさんあります。特に、大学関係のブースが昨年より増えており、最新の研究成果の発表や、楽しい出し物がいろいろ準備されているようです。出展団体は、1日目は行政関係が多く、2日目は市民団体が多いので、2日間来場して下さっても別の発見があります。

ステージイベントもあります。印旛沼・流域再生大賞の表彰式、流域のゆるキャラ撮影会(以上24日)、流域を中心とするグループ・個人のコンサートなどが2日間とも盛りだくさんです。

出展団体と出し物、ステージイベントプログラム、シャトルバスの時刻表など詳しいことは、健全化会議のホームページ「いんばぬま情報広場」のクローズアップというところに特設コーナーがありますので、ご覧ください。

<http://inba-numa.com/fair13/>

では、フェア会場でお会いしましょう!

桑納川のナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦

八千代市環境政策室 谷口路代

平成25年度に実施した新川周辺の「特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査」をきっかけに、平成26年度から印旛沼水循環健全化会議の生態系ワーキングでナガエツルノゲイトウについて取り組むことになりました。

台風や大雨で水位が上がると群落が新川へ流出し、大和田排水機場の排水運転に悪影響が出ます。また、川の水を揚水している田んぼに繁殖し農作業に支障をきたしています。そこで平成26年度は、新川、桑納川、神崎川の生息分布の調査や増水した時の移動などを調査しました。

その結果を受け、平成27年度は、八千代市内を流れる桑納川で、「協働駆除作戦」として地域の方、市民団体、大学(東邦大学、千葉大学)、土地改良区、水資源機構、土木研究所、行政(千葉県、千葉市、八千代市)と協働で駆除が始まりました。

6月に千葉土木事務所が重機により8.7トン駆除しました。7月27日は、上記のメンバーが水域と地上に分かれ、駆除跡の再発芽を手で取り除く作業をしました。8月26日は、八千代市内で里山保全活動をしているヤマトミクリの里づくり協議会のメンバーも参加し総勢45名で作業をしました。観察

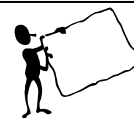
区域の駆除以外に、大きな1つの塊を岸からはがして、ボートと人の手でまるごと駆除しました。この日の成果は、湿重量として約1,050kgになりました。また、千葉大学の近藤先生によるドローン撮影も行われました。

この報告を作成していた9月10日に、台風18号から変わった低気圧の影響の大雨が、大和田排水機場にナガエツルノゲイトウを運んでしまいました。駆除は一筋縄ではいかず、長期戦をしいられる地道な作業です。今後は、駆除したナガエツルノゲイトウの利用等も視野に入れながら多くの方々に参加を呼び掛けていきたいと思っています。「協働駆除作戦」にご協力よろしくお願いたします。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 29 —

おききました！ この人・この団体



環境カウンセラー千葉県協議会

環境カウンセラー千葉県協議会 理事長 見並 勝佳

— 私たちは次の世代へより良い環境を残していきたい —

《環境カウンセラー千葉県協議会とは》

環境省に登録された環境に関する専門知識や豊富な経験を持つ“環境カウンセラー”の千葉県在住者を主な会員とし、地域の市民・市民団体、事業者、自治体、教育機関などと連携し、地球温暖化対策、廃棄物対策、水環境や生物多様性の保全などの環境活動の推進及び支援活動を行っています。

《主な活動 (1) 環境公開講座、環境セミナーなどの開催》

一般市民や事業者の方々へ多くに呼びかけて、現在注目されている環境問題各方面について、第一線の講師を招いて公開講座やセミナーを企画しています。最近の事例では「日常のくらしと放射線」「極地の氷から地球温暖化の将来を探る」「ミツバチ大量死は警告する」「地球化学的手法による火山噴火予知の可能性」等の講座・セミナーを実施しています。

《主な活動 (2) 自然観察会、生物多様性研究会、環境施設見学会などの開催》

県内、県外まで広く自然の成り立ちや、環境関連施設について、会員とともに市民、事業者の皆さんと研鑽と情報交換の場を設けています。最近の事例では、「富士山麓の湧水観察、動植物等自然との触れ合い」「上総鶴舞ソーラーシェアリング、ソーラーシェアリングしろい富塚での農業と太陽光発電事業の両立についての現場での情報交換会」「(株)ハイパーサイクルシステムズの家電リサイクル施設」「南房総市丸山川での水生生物調査、観察会」等に行っています。

《主な活動 (3) 環境関連講座、学校教育、研修会などへの講師派遣》

大学・高校などの環境授業・環境講座や自治体や市民団体が行う研修会・講演会などへ講師を派遣しています。また我々は、今までの実績が認められ、平成26年9月、環境省と文部科学省から「環境教育等支援団体」の指定を受けています。最近の事例では、木更津高専の環境特別授業、市原市市民環境大学、浦安市民大学、白井市省エネ講習会、等に講師を派遣しています。

《主な活動 (4) 環境マネジメントシステム構築等、事業者支援の活動》

事業者の取り組んでいる環境 ISO やエコアクション21への取組を支援する活動として ISO14001、ISO9001 の内部監査員養成講座の年2回ずつの実施、エコアクション21普及セミナーの開催、企業環境セミナーの開催、eco 検定受験対策講座、等を実施しています。

《主な活動 (5) 水環境改善、浄化槽講習会等、行政と一体となった活動》

千葉県環境生活部水質保全課主催の千葉県各市町村での浄化槽講習会に講師を派遣し実演による指導を行っています。

《主な活動 (6) 各地の環境イベントへの参加による環境保全の啓発活動》

「エコメッセ in ちば」においては、炭酸ガス濃度測定の実演による親子連れ家族への地球温暖化問題のお話しや、緑のカーテンでのゴーヤ、アサガオの種の配布、等で展示しています。各地の環境フェア(千葉市、船橋市、鎌ヶ谷市、白井市、袖ヶ浦市、松戸市、等)に参加して地域の環境に携わっている人々や市民、行政との交流を図っています。

《最後に》

環境カウンセラー千葉県協議会は、平成10年に設立、平成15年にNPO法人になって順調に活動し続け現在109人の会員数になっています。そして環境保全の活動に関心のある方に広く(環境カウンセラーでない方も歓迎)、会員を求めています。

TEL/FAX 043-276-7300

事務局長 服部 達雄

E-mail : ec_chiba_exec@yahoo.co.jp

URL: <http://ecchiba.sakura.ne.jp>

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

8月運営委員会

日時 8月12日(水) 18:00~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・だより 104号印刷・発送 ・HP 進捗状況
- ・千葉市公民館講座開催(7/29)
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金決定

【協議】

- ・だより 105号 ・HP について
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金
- ・エコメッセ2015in ちば
- ・法人格と一般社団法人の検討
- ・その他

9月運営委員会

日時 9月9日(水) 18:00~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・エコメッセ出展者説明会開催 8/24
- ・NPO法人格について考える会 9/1

【協議】

- ・だより 105号 郵送代の節約のために定型で送る
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金内容検討
- ・Eボート千葉大会(10/17)
- ・印旛沼流域環境体験フェア(10/24)
- ・いちはら市民大学(11/26・12/3)
- ・エコメッセ2015in ちば 出展内容について

お知らせ

「講演会開催」参加者募集中です

日時：平成27年10月15日(木)
14:30~16:30
会場：千葉市生涯学習センター 3階 大研修室
参加費：300円(資料代)
定員：100人(先着順)

テーマ：気候変動リスクと人類の選択
~IPCCの最新報告から~

講師：江守 正多氏
(国立環境研究所地球環境研究センター室長)

主催：環境パートナーシップちば

申し込み
電話：080-5374-0019
Fax：047-353-8134
E-mail：moushikomi@kanpachiba.com

ホームページ：
<http://kanpachiba.com/archives/1801>

祝！！「印旛沼・流域再生功労者賞」を 金山英二氏(環パちば会員)が受賞

今年度の印旛沼・流域再生大賞に「NPO富里のホタル」「NPO水環境研究所」「里山の会E COMO」、流域再生特別賞に「印西市環境経済部環境保全課」、流域再生功労者賞には金山英二氏の受賞が決定しました。

受賞式は、10月24日(土)印旛沼流域環境フェアです。

金山氏は、佐倉印旛沼ネットワークの会の初代代表としてもご活躍され、長年印旛沼環境改善に尽力されました。

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール: info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば> 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		